

2023 年度 自己評価報告書

2024 年 2 月 26 日

学校法人南星学園

はじめに	2
1. 自己評価の実施体制.....	2
(1) 自己評価実施規約の設定.....	2
(2) 事務局体制.....	2
2. 自己評価の実施対策.....	2
(1) 評価項目の決定	2
(2) 自己評価点の算出.....	2
3. 自己評価の実施.....	3
(1) 実施前説明会	3
(2) 自己評価の実施方法	3
4. 自己評価結果	3
(1) 自己評価点と判定.....	3
(2) 項目毎の意見	5
(01) 教育理念・目標	5
(02) 学校運営	5
(03) 教育活動	6
(04) 学修成果	7
(05) 学生支援	7
(06) 教育環境	8
(07) 学生の受け入れ募集	9
(08) 財務.....	9
(09) 法令等の遵守	10
(10) 社会貢献・地域貢献	10
(11) 国際交流	10
5. 総括	11

はじめに

実践的な職業教育等を行うために、自らの教育活動や学校運営について、社会のニーズを考慮した目標を設定しました。その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を評価し、公表することで、学校としての組織的・継続的な改善を図ることを目指しています。その一環として、2023年度の自己評価を学校全職員により実施しました。

今回の自己評価を通じて明らかになった各課題の改善策について、学校関係者評価委員会からの客観的な評価を受け、全ての職員の知識と経験を活用して課題の改善に取り組む予定です。

1. 自己評価の実施体制

(1) 自己評価実施規約の設定

- ① 学校経営者及び職員が意識を共有し、組織が一体となって学校自己評価に取り組むため、学校法人南星学園「学校自己評価委員会規約」を設定しました。
- ② 同規約に基づき自己評価委員会を組織化しました。当委員会は学院長を委員長とし、計8人の委員で構成します。

(2) 事務局体制

- ① 令和6年1月17日、第1回学校自己評価委員会を開催し、学院長が委員長となり、各委員が事務局員を兼務することを確認しました。
- ② 当委員会の事務局は美浜校に置き、事務局長に中島康夫を選任することを了承しました。併せて全委員が自己評価実施の事務局員として業務を分担し、協力することを確認しました。

2. 自己評価の実施対策

(1) 評価項目の決定

- ① 第2回学校自己評価委員会で、自己評価の実施対策を検討し、評価項目として、「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて、11の大項目と63の評価小項目を決定しました。

(2) 自己評価点の算出

- ① 各小項目を4段階で評価し、その指標として、①適切、②ほぼ適切、③やや不適切、④不適切と表示し、それぞれの指標に対して、4-3-2-1の数字を適用して数値化します。
- ② 自己評価に参加した全職員の評価数字を合計して平均化し、大項目の評価を

判定しました。

③ 更に、数値化した値を次の基準で評価しました。

平均評価点 3.5 以上 . . . A 評価

平均評価点 2.5 以上—3.5 未満 . . . B 評価

平均評価点 1.5 以上—2.5 未満 . . . C 評価

平均評価点 1.0 以上—1.5 未満 . . . D 評価

3. 自己評価の実施

(1) 実施前説明会

- ① 自己評価を実施する前に、学校評価の目的、意義、公表までの手順について全職員に説明し、自己評価の実施について理解と認識を共有するように努めました。
- ② 評価の大項目に関する学校の経営、事業、教務、財務等の全般にわたって説明会を開き、学校の実績・現状及び達成状況について全職員に説明し評価に必要な情報を提供しました。
- ③ 説明会は、2024年2月7日の5時20分から5時40分までの20分間行いました。

(2) 自己評価の実施方法

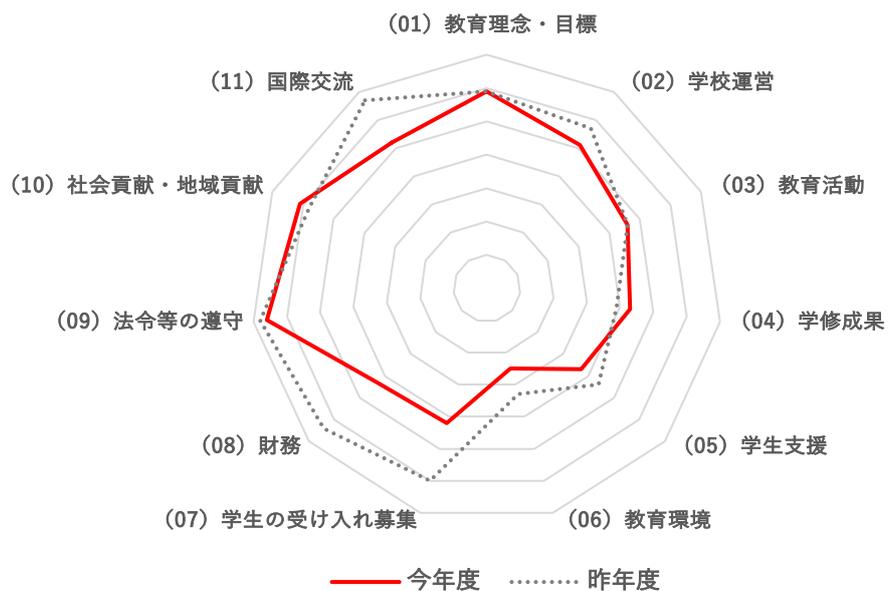
2024年2月8日から2月22日の期間を設け、Google Formにて自己評価を実施致しました。

4. 自己評価結果

(1) 自己評価点と判定

評価項目	2023年度		2022年度	
	評価点	判定	評価点	判定
(01) 教育理念・目標	3.49	B	3.49	B
(02) 学校運営	3.41	B	3.47	B
(03) 教育活動	3.36	B	3.36	B
(04) 学修成果	3.33	B	3.29	B
(05) 学生支援	3.27	B	3.34	B
(06) 教育環境	3.15	B	3.23	B
(07) 学生の受け入れ募集	3.32	B	3.50	A

(08) 財務	3.33	B	3.54	A
(09) 法令等の遵守	3.56	A	3.58	A
(10) 社会貢献・地域貢献	3.51	A	3.48	B
(11) 国際交流	3.42	B	3.57	A



(2) 項目毎の意見

(01) 教育理念・目標

- HP 上で、外部の人でも、サイテクの様々な情報について知ることができるようになりました。
- 教育理念や目標は入学の心得に定められており、心得はオリエンテーションのときに配布され、説明されています。
- 毎年自己評価を重ね、意識しながら改善されていると感じています。
- 留学生の場合、学生自身、さらに保護者にも周知されているとは言えません。各国語に対応した HP の充実が望まれます。
- 留学生の保護者に対する周知はまだ不十分だと感じます。今後、東アジアの受け入れを見据えるのであれば、最初の一步として中国語の HP を作成してみてもどうでしょうか。また、現在在籍数の多いネパールについては、保護者のメールアドレスの活用や HP もあれば、評価が高くなると思います。
- 学生や保護者等に周知してもらうのに力不足を感じています。

(02) 学校運営

- 学校には就業規則に関するファイルが設置されており、いつでも閲覧可能です。
- コロナや物価高騰などの厳しい状況の中でも、職員が働きやすいように整備・改善を行っている学校側の努力を感じ、感謝しています。
- DX による業務の効率化については、現状を踏まえた上での取り組みとなると思います。
- ペーパーレス化が進んでいるとは思いますが、まだ改善できる部分があると考えています。例えば、証明書の発行や願書などの手続きを Web 申請システムに移行することで、業務効率をさらに向上させることが可能だと思います。
- 卒業証明書等の交付申請や手数料の支払いがウェブサイトから可能になると、非常に助かります。現在、県外在住の卒業生からは発行手数料を受け取っていませんが、受け取れるようになること、そして留学生がキョル先生に時間外でも連絡を取ることが多いため、その負担を軽減すること、さらにペーパーレス化といったメリットがあると思います。
- 全体的に適切だとは思いますが、DX については、例えば生徒の出席管理システムを導入するだけでも業務の効率化が図れると考えています。
- 給与の増加や交通費、ボーナスの支給などは大変助かりますが、家賃補助や未使用の有給休暇の買取があれば、さらに良いと思います。
- DX 化は、できるだけ意識して進めているつもりですが、まだ十分ではない

と感じています。DX化には設備投資も必要だと思われるので、徐々に進めていくことが良いと考えています。

- 就業規則について、職員がもっと活用できるように、これからも構築していきたいと考えています。
- 学生や非常勤の先生方が早く来ることから、上司の指示で始業時刻よりも30分近く早く出勤し、学校を開けてくれる方々に対しては、早出の手当を支給すべきだと思います。

(03) 教育活動

- 概ね適切だと思います。業界との「連携」については、まだ不十分かもしれませんが、非常勤講師の先生方が業界で活躍されているので、問題ないと思います。
- 近年なかなか行われていなかった留学生のインターンシップは、今年度、企業側に選ばれた学生だけが行き、学校外で実践できたことは評価が高いです。
- 教育活動においては、現時点でできる限りのことはしていると思いますが、昨今の科学技術は日進月歩であり、DXに対して新たな知識・技能の理解・修得も要求されていると思います。
- 最近の人材不足の影響を受け、職員の確保に苦労しています。求人を出しているにもかかわらず、応募がありません。人材を確保できなければ、健全な学校運営に支障をきたすので、現在出している条件を見直すなどして、必要な人材の確保に努めてほしいと思います。
- 常勤、非常勤講師、さらに日本語科の事務を担当する職員の補充が必要ですが、現時点では未補充のままです。留学生本科の授業、さらにはサマースクールなどに対応するために教員の確保が急がれています。
- 学外での研修会への参加など、新しい知識を得ることが望ましいですが、現時点では行われていません。
- せめて学内研修会や互いの授業見学を定期的に行って、非常勤講師を含めた教員チーム全体の資質向上に努めることが必要ですが、教員不足に加え、補講により夏季、春季の長期休みが大きく削られていることなどから余裕がありません。
- 人員の確保に加えて、学生の入国遅れをなくすことが必要です。
- 授業評価は実施されておらず、外部からの評価については行われているかもしれませんが、こちらには情報が入っていません。
- 情報システム科の教員が不足しているのではないのでしょうか。
- 情報システム科の専門科目において人員確保が難しくなっており、現在す

べて非常勤講師が担当していることから、卒業後の進路を見据えた学生個別の対応や、科目間の連携がとりにくくなっているように感じます。

- キャリア教育等、学生個々と向き合う時間が増えたと感じます。人材の確保は、どこに限らず人材不足の話聞く中で難しいと思っていますが、どう確保していくか課題を感じています。

(04) 学修成果

- 卒業生の体験談を聴く機会が増えているように感じます。これは在校生にとっても良い刺激になっていると思います。
- 学校への書類発行の依頼や、毎年行われる建築作品展の来場時、またはその案内メールの際に確認を行っています。
- 最近では、職場から求められる資格を取得する学生が増え、就職率にも寄与しています。また、卒業した学生に声をかけて職場の話をしてもらうなど、卒業生の活躍を聞く機会も設けています。
- 資格取得は積極的に行われていると感じます。
- 卒業生の活躍については、各学科の担任がある程度把握しています。
- 片桐先生が留学生本科の就職関連を担当するようになり、インターンシップや就職先の開拓など、明るい話題が増えたと感じます。これにより、担任の負担も軽減されているのではないのでしょうか。
- 活躍している卒業生を招待して、講話などを行いたいと思います。
- 退学率の低減については、自立させる年齢ということもあり、バランスが必要ですが、学校としては把握、フォローはやりすぎなくらいでも良いと思います。細かいチェックを心掛けたいと思います。
- 資格取得については、学生の意識が一時期より向上しているように感じます。
- 卒業後の活動についてどの程度まで把握すべきか、留学生の場合は帰国後まで追って情報を収集すべきかは、その方法も含めて検討すべきだと考えます。
- 卒業生の動向については十分に把握していないと感じます。退学を減らすためには、学生の日々の生活状況や学習状況、さらには進路に対する考えを把握する必要があると思います。
- 卒業生の把握には課題があると感じます。

(05) 学生支援

- 留学生本科に関しては、就職支援の専任が就いたことで企業先との連携がスムーズに行われているように感じます。
- 全体的に適切だと思います。

- 留学生が増える中で、相談に対応できる職員の数が変わっていないという問題があります。
- 昨年度までなかった進学・就職サポートは今年度から留学生を対象に行われており、来年度の就職率が期待できます。来年度からは留学生だけでなく、日本人学生も同様に活用できれば良いと思います。
- LINE で欠席等の連絡をするようになり、病状等の詳細を話してくれるため、学生の健康状態等を把握しやすくなりました。これにより、日々の学校生活でも、個々の症状に気にかけることができました。
- 学生の声に即座に反応できるように、職員の数を増やすことが必要だと思います。
- 急な病院対応などに教員が駆り出されることがあるため、そういった場合のための人的余裕が必要です。また、自国で通院中、服薬中の学生は入国後もケアが必要となる場合もあるので、入学許可については慎重にすべきです。
- 授業に追われているため、学生への相談や進学・就職・課外活動等に対する支援体制は十分ではないと思います。
- 就職率・退学率等については、学科に偏りがあると感じています。不安定な学生も増え、担任としてまた学校としてもどう対応していくかは課題と感じています。
- 卒業生の把握に基づく支援体制の検討が必要です。

(06) 教育環境

- AED の設置が念のため必要と思います。
- 女子学生、委託の受講生なども増える中で、女子トイレが各階に 1 つだけだと、不便を感じる。
- 壁が薄く、聴解・筆記問題など静かな場所で勉強できる環境がないのが残念である。日本語科は口頭練習が多いため、隣のクラスに迷惑をかけているのではないか。後付けできる防音対策をしてほしい。
- 学生にとっては、施設や設備は十分ではないと思われる。息抜きができる場所や自習できる場所、調べものができる図書室、体を動かせる体育館等が整備されていれば、もっと充実した学生生活が送れると思う。
- 津波・地震等の訓練を実施しているが、不安は尽きない。個々でも訓練実施を通し整理していきたい。
- 学校の施設や設備の老朽化対策が必要。

(07) 学生の受け入れ募集

- 適切だと思います。
- 近年の少子化に伴い、建築の学生の在籍者数が減少してきています。
- 建築は求人も多く、魅力的な分野であるため、今後日本語力の高い学生が増えるなら、留学生の募集も積極的に行うべきだと思います。
- 日本語科の入学者選考については、日本語能力試験 N5 相当のものを選んでいるはずですが、以前よりは改善されていますが、まだそのレベルに達していない学生が入学しています。
- 今後は基準をさらに高く設定し、N4 相当以上の者の入学を認めることが望ましいですが、認定試験の合格証明書（信頼できるものか？）やオンライン面接などで実際の学力を見極めるのは難しいかもしれません。
- 学費改正後初めての年度ですが、コロナなどで学生や高校側の流れも変化し、学費改正が募集状況に影響しているのかはよくわかりません。
- 物価高騰に伴い、その他の必要経費も少し金額を上げて良いと思います。
- 留学生本科の入学選考が定められたことで、学生の質や能力が期待できます。建築デザイン科も同様に基準を定めれば、学校と学生のミスマッチが減り、進学・就職率が伸びると思います。
- 学納金の値上げは家庭にとって経済的負担が大きいため、給付型奨学金などを活用できるように、さらなる支援が必要だと思います。
- JLPT（日本語能力試験）の受験料を学費から支出するようになってから、情報システム科の予算が厳しくなってきたように感じます。年間 15,000 円ほどですが、その分ソフトのライセンス料の捻出が困難になってきました。さらに来月から値上げの発表もありました。学費を値上げすることは可能でしょうか。
- 定員についても、今後検討が必要になるかもしれません。
- 定員割れの課題はありますが、定員設定の検討が必要だと思います。

(08) 財務

- 日本語科の学生が大勢入学し、また委託事業の継続もあるため、財務基盤は安定していると思われます。
- 各委員会が定期的で開催され、適正に監査や公開が行われていると思います。
- コロナ禍の影響で、財政基盤は十分とは言えないと思います。
- まだコロナの影響を受けているので、財務的にかなり厳しい状況が続いており、安定というのは難しいと思います。
- 次年度の学生数が影響を及ぼすと考えます。学校周辺の施設等を増やして

いくことが望ましいです。

(09) 法令等の遵守

- SNS の普及により、以前に比べて個人情報の保護が格段に難しくなってきました。
- 特に留学生に対して、個人情報の重要性を伝える機会を頻繁に設けています。これは今後も続けていくべきだと思います。
- 自己評価の実施から得られた意見や問題点を大小に関わらず汲み取り、毎年大きく改善するものもあれば、一歩ずつしっかりと改善に努めていることを感じています。
- 個人情報に関しては、オリエンテーションで学校の HP や SNS などでの掲載写真の許可を得ています。
- 自己評価や学校関係者評価を実施・公開しており、学校の問題点に対する改善策を掲げ、改善に取り組んでいますが、まだ十分とは言えません。

(10) 社会貢献・地域貢献

- 求職者支援訓練や沖縄県委託訓練を行っており、社会に貢献できていると感じています。
- 教室に余裕があると助かる面もありますが、委託訓練は充実していると思います。
- 適切だと思います。特に委託訓練の実施は社会・地域貢献になっていると思います。
- 毎年、地域清掃を継続できています。
- 学生は学校とアルバイトの間に、ボランティア活動をする時間を設けるのが難しいです。授業内でそのような機会に触れることができれば良いと思います。
- 学生のボランティア活動を奨励していますが、十分に支援しているとは言えません。
- 個人的には、学生ボランティアの奨励と支援をもっと積極的に行うべきだと思っています。積極的に実施している学生に対しては、特別活動賞などを提案しても良いと思います。

(11) 国際交流

- キシヨル先生をはじめとする日本語科の先生方が、日々留学生の指導に尽力しています。また、台湾からの留学生獲得にも力を入れています。
- 去年から、台湾に向けた活動を行うなど、国の多様化に努めています。

- 日本語科では今年度初めて短期のサマーコースが開設され、台湾人 3 名が参加しました。来年度にはさらに台湾からの留学生が日本語科と留学生本科に入学予定です。今後も台湾をはじめ、ネパール以外の学生の入学が増え、国際色豊かになることが望ましいと思います。留学生の在籍管理や生活指導は、各担任および生活指導係によって定期的に行われています。
- 留学生の生活指導、学修、在籍管理は十分に行われていると思います。
- 委託訓練や留学生の対応等の仕事も、職員全体で手伝える環境を大切にしたいと思います。内容がわからなくても、何かできることがあれば声をかけてほしいと思います。
- 留学生が増える一方で、職員の数が不足しており、指導が行き届かないところもあります。
- 問題が発生した時には、迅速に対応するように努めています。より指導が行き届くように、職員の数を増やすことが望ましいです。

5. 総括

自己評価を実施し 24 名の職員から回答を頂きました。

(10) 社会貢献・地域貢献の評価は、昨年度の B 評価から今年度の A 評価に向上しました。この改善は、今年度にサイテクカレッジ美浜とサイテクカレッジ那覇で実施した求職者支援訓練や沖縄県委託訓練（合計 6 コース）が評価に寄与したと考えられます。これらの取り組みは、私たちの社会貢献・地域貢献への強いコミットメントを示しています。

(09) 法令等の遵守は、昨年度と同様に A 評価を維持しました。また、(01) 教育理念・目標、(02) 学校運営、(03) 教育活動、(04) 学修成果、(05) 学生支援、(06) 教育環境については、昨年度と同じく B 評価を維持しました。これらの項目については、更なる改善を行い、A 評価を目指す必要があります。

(07) 学生の受け入れ募集、(08) 財務、および (11) 国際交流については、昨年度の A 評価から B 評価に下がりました。意見では、給付型奨学金による学費支援や資格試験の受験料の値上げに対応するための、学生から徴収しているその他の必要経費の見直し、そして定員割れに対する対策が提案されています。

意見は総数 81 件で、その中でも最も多くの意見が寄せられたのは (02) 学校運営に関するものでした。学校の取り組みに対してポジティブな意見が寄せられる一方で、改善を求める意見も存在しました。これらの意見を踏まえて、2024 年度の改善策を立案し、その後で学校関係者評価委員からの評価を受ける予定です。

2023年度 自己評価書 評価項目

評価項目	項目No	項目
(01) 教育理念・目標	01-01	学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか
	01-02	学校における職業教育の特色はあるか
	01-03	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
	01-04	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(02) 学校運営	02-01	学校の理念・目的に沿った運営方針が策定されているか
	02-02	運営方針に沿った事業計画が策定されているか
	02-03	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
	02-04	就業規則に人事、給与などに関する規定等は整備されているか
	02-06	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
	02-07	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
	02-08	DX（デジタルトランスフォーメーション）による業務の効率化が図られているか
	(03) 教育活動	03-01
03-02		業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
03-03		学科のカリキュラムは、体系的に編成されているか
03-04		キャリア教育・職業教育の視点に立ったカリキュラムが実施されているか
03-05		キャリア教育・職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直し等が行われているか
03-06		関連分野におけるインターンシップが、体系的に位置づけられているか
03-07		授業評価の実施・評価体制はあるか
03-08		教育活動に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
03-09		成績評価の・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
03-10		資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
03-11		人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保しているか
03-12		関連分野における業界との連携により、優れた教員を確保するための運営が行われているか
03-13		新たな知識・技能等の修得、指導力育成など資質向上のための研修は行われているか
03-14		設定しているシラバス通りの講義が実施されているか
(04) 学修成果	04-01	就職率の向上が図られているか
	04-02	資格取得の向上が図られているか
	04-03	退学率の低減が図られているか
	04-04	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

評価項目	項目No	項目
(05) 学生支援	05-01	進学・就職に関する支援体制は整備されているか
	05-02	学生相談に関する体制は整備されているか
	05-03	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
	05-04	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
	05-05	課外活動に対する支援体制は整備されているか
	05-06	学生の生活環境への支援は行われているか
	05-07	保護者と適切に連携しているか
	05-08	卒業生への支援体制はあるか
(06) 教育環境	06-01	学校の施設や設備は、教育上必要な機能を十分に備えているか
	06-02	危機管理体制は整備されているか
(07) 学生の受け入れ募集	07-01	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
	07-02	学納金（入学金・学費・その他必要経費）は妥当なものとなっているか
	07-03	入学選考は、適切かつ公平な基準に基づき行われているか
	07-04	適正な定員設定及び在籍者数になっているか
(08) 財務	08-01	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
	08-02	予算・収支計画は妥当なものとなっているか
	08-03	業務及び財産の状況について適正に監査されているか
	08-04	財務情報公開の体制整備はできているか
(09) 法令等の遵守	09-01	私立学校法に沿った学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
	09-02	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
	09-03	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
	09-04	自己評価結果を公開しているか
	09-05	寄附行為に沿った理事・理事会および評議員・評議会が適正な運営がなされているか
	09-06	ガバナンスを発揮できる寄附行為になっているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	10-01	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
	10-02	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
	10-03	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を実施しているか
(11) 国際交流	11-01	留学生の受入れについて戦略を持って行っているか
	11-02	留学生の学修や在籍管理において適切な体制が整備されているか
	11-03	留学生の生活指導等において適切な体制が整備されているか
(12) 在留管理と生活指導	12-01	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切におこなわれているか
	12-02	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか
	12-03	我が国の法令を厳守させる指導を行っているか
	12-04	常に最新の学生情報を把握しているか